



甲斐 由起子氏プロフィール

昭和 39 年横浜生まれ。昭和 59 年井本農一に師事。平成 7 年「常磐松句会」を経て、「祥」に入会。「祥」新人賞。平成 11 年「天為」入会。有馬朗人に師事。平成 18 年「天為」新人賞。現在「祥」・「天為」同人。俳人協会幹事。国際俳句交流協会会員。

『雪 華』

(自選15句)

甲斐由起子

人形の目の一重なる余寒かな
夢醒めてなほ夢の世や西行忌
遅き日の速くが見えてゐたりけり
絵日傘をひらけば顔に花の影
うつしみの色さしきたり羽化の蟬
すぐそこと言はれて遠し草いきれ
白桃に頬を濡らして母おもふ
ひとところ強く日のさす秋の嶺
小鳥来るかきと音してもう一羽
熊出ると話すあひだも星流る
病み抜いて垢も浮き来ぬ柚子湯かな
未明の雪死者と生者とひとつ間に
生きてをらば齢八十寒の菊
離出して今日といふ日の終はりけり
人影の岸を離るる忘れ雪